



# ろうさい病院つうしん

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6  
<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511  
FAX: 052-653-3533

## 中部ろうさい病院に赴任いたしました

看護部長 古屋敷 智恵美



はじめまして、今年4月に秋田労災病院から赴任いたしました。郷里の広島にある中国労災病院をスタートに秋田、名古屋と今回が3箇所目の勤務地で、秋田に続いて名古屋も私にとっては初めての土地です。中部ろうさい病院に初めて訪れての第一印象は、2007年に新築されたこともありとても綺麗で優しい感じの病院だと思いました。癒しのこころみとして造られた玄関ロビーのステンドグラス・陶器の壁画・屋上庭園などの安らぎの空間があり、患者さまだけでなく職員にとっても恵まれた環境の病院だと思います。

4月には院内の桜が満開で私たちを迎えてくれているようでした。これからは新緑の中につきが色鮮やかで季節感あふれています。

当院の看護部は「誠意」を基本理念に掲げ、患者さまの「生命・生活」の質向上に貢献できる看護を目指しています。誠実な看護を実践していく為には、確かな知識と技術、看護をCreateしていく能力が求められます。いつも患

者さまの一番近くにいる看護師は患者さまのニーズを捉え、患者さまの意思決定を支え満足していただける看護を提供していくとともに、チーム医療の中でマネージメントしていく役割が求められています。そのためには、他部門との連携を強化していくと共に、専門職としてのキャリア開発が必須となります。現在、皮膚・排泄・感染、化学療法、緩和ケア、集中ケア、摂食・嚥下の6分野の認定看護師が専門の領域で活躍しています。今年度は、更に救急看護と手術看護の2分野にチャレンジしています。一人ひとりの看護師が夢を持ってキャリアアップでき、成長し続けられる組織にしていくこと、地域、社会での役割を認識してチーム医療のなかで専門職として患者さまに安心して頂ける看護が提供でき地域の人から選ばれる病院となるように、堀田院長の基で『病院らしくない病院・心の癒される病院・受診し易く働きやすい病院』を目指して、頑張っていきますので宜しくお願い致します。

# 着任のごあいさつ

脳神経外科部長 服部 和良



この4月に、関行雄前部長の後任として赴任しました。昭和56年に鳥取大学医学部を卒業し、静岡済生会総合病院にてローテート研修のち脳神経外科初期研修を行い、その後、名古屋大学脳神経外科に帰局し、多くの先輩諸氏の指導のもと、臨床に、研究に研鑽を積ませて頂きました。大学を離れ、国立名古屋病院脳神経外科に赴任し、ここで、恩師桑山明夫先生の指導のもと、400例を超える経鼻下垂体手術(Hardyの手術)を経験しました。平成9年に国立名古屋病院を離れてからは、静岡県、岐阜県のいわゆる地域の中核病院に赴任し、脳血管障害や頭部外傷を中心に一般脳神経外科医として地域医療を担い、また後進の指導に携わってきました。しかしながら、この頃から医療情勢は変化を見せ、これらの地域の中核病院でも、麻酔科、産婦人科、小児科などを先頭に、医師確保がどんどん困難となり、今では地域医療の質的維持が難しくなっています。そんな中で、寝食を忘れ、懸命に地域医療を守ろうとしている医師たちの過酷ともいえる活躍ぶりも見てまいりました。彼らに後ろ髪ひかれる想いで、久々に名古屋に帰ってきますと、地方と都市部での

医療較差、医師の労働環境の較差を実感します。果たして、日本の医療行政に、真摯に将来を見据えたビジョンはあったのでしょうか、あるのでしょうか？

一方、私の専門領域である脳神経外科におきましては、ガンマナイフなどの定位放射線治療の導入、血管内手術の進歩などの恩恵を受け、脳の直達手術を受けなくてもすむ患者さんが増えてまいりました。このことは、見方を変えれば、私たち脳外科医にとって、「できない手術」を増やしていることに繋がっています。新進の脳外科医と話していても、深部の脳腫瘍の摘出手術を見たことがないとか、後頭蓋窩の動脈(椎骨・脳底動脈、およびその分枝)を直接見たことがない、などと聞くことがしばしばあります。これらの領域の直達手術に立ち向かわれた脳神経外科の素晴らしい先達・先輩たちの技術を次の世代の脳外科医に伝えてゆくことも、私の今後の使命かと考えながら、勤務医の本分として、地域と病院のニーズに沿った医療を提供することに邁進してゆく所存であります。よろしくお願いします。

## 科別医師診療予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
脳神経外科 診察1	○服部	代務医	◎佐原	○服部	佐原
脳神経外科 診察2	大井		大井		

○部長

◎第2部長

中部ろうさい病院

## 現在の関節外科治療

整形外科副部長 山口 仁



この度4月より中部ろうさい病院整形外科に赴任する事になりました、山口 仁と申します。諸先生方にはこれからお世話になる事になります。宜しくお願い申し上げます。

私の専門分野は整形外科の中でも股・膝関節を中心とした関節外科です。膝関節の痛みは最初のころは立ち座りや正座が出来ないなどの軽度の症状ですが、その内に歩行も困難になり、ますます運動不足から体重増加、患部への負担増加といった悪循環になります。また股関節の痛みはひどくなってくると膝関節の時とは比べ物にならないほどの激しい痛みが走ります。よく患者さんは「錐で刻まれたような痛さ」とか「脳天にまで痛みの刺激が走る」といった表現をなされます。こういった股・膝関節の強い痛みを抱えている患者さんたちに人工関節置換術を施行いたしますと、劇的に症状が改善いたします。100m歩くのがやっとだったお婆ちゃんが、杖も無しにすたすと1時間歩けるようになることも珍しくはありません。患者さんの「もっと早くすれば良かった…」とは私にとっては最高の言葉です。

この人工関節も以前と比べてかなり改善されてきました。少し前までは耐久性の面から「人工関節は65歳以上になってから」とよく言われたものです。現在は従来の金属とポリエチレンの組み合わせに加えて、セラミックを使用したり金属と金属の組み合わせにしたりといった耐久性に優れた材質が開発されてきました。また今まで様々なデザインの人工関節が開発されてきましたが、どのタイプが優れているのかが明らかになってきました。適切な人工関節を選択し適切な手術をすれば、現在は約80%の方

が15年の生存成績を得られています。また人工関節再置換術の技術向上も目覚ましいものがあります。当院でも積極的に同種骨を用いたImpaction bone graft再建術を取り入れています。このように現在は以前のように高齢者が対象であった人工関節治療も、変形性関節症の進行期・末期であれば若年者であってもADL/QOL向上のために行うことをためらう事は少なくなりました。

しかしその一方で、初期のころの変形性関節症や大腿骨頭壊死症にはやはり現在も骨切り術は非常に有効な治療法です。

初期のころから予防的に行うことによってその後の手術治療から解放される患者さんも多く見えます。適応年齢も50歳まではほとんど成績に変わりはないことも分かってきました。当院でも寛骨臼回転骨切り術・大腿骨転子間彎曲内反骨切り術・高位脛骨骨切り術などを積極的に行っています。残念ながら昨今では骨切り術は技術的に困難ということで施行可能な施設が減ってきており、名古屋市内でも数えるほどしかありません。当院は数少ない骨切り術を積極的に施行する事が可能な施設です。諸先生方も適応があるかもしれないと疑われたときは、時期を逸しないためにも積極的にご紹介してくださいれば幸いです。患者さんのその後の運命が大きく左右される可能性があると思っています。

関節手術はその後の患者さんの満足度が非常に高い手術の一つです。患者さんのADL/QOLを積極的に高めて行こうという現在の方向を考えれば、非常にニーズにあった分野と思われ、日々頑張っていきたいと思っています。

# 連携室だより

## 平成21年度中部ろうさい病院夏期病診連携セミナー ～ご報告～

平成21年8月20日(木)午後3時より、当院2階講堂にて、夏期病診連携セミナーを開催いたしました。今回は、坂口 憲史外科部長より「当院における乳癌診療」、加藤 健宏外科医師より「内痔核治療」の2題をテーマといたしました。

「当院における乳癌診療」では、マンモグラフィ、乳腺エコー等を使用した当院での診断の実際や、局所治療、全身の治療といった、乳癌診療ガイドラインに基づいた治療の紹介や術式、手術適応の要件等を紹介いたしました。

「内痔核治療」では、外科外来診療において、初診患者がもっとも多い肛門疾患をとりあげ、最新の治療法である4段階注射法による硬化療法を、当院での治療成績に基づいて紹介いたしました。

いずれも、身近にある疾患をとりあげたことから、連携医療機関の先生方からも診断方法、治療方法に関する活発な質疑がみられました。また、セミナー終了後の意見交換会には、セミナーにご参加いただいた先生方が全員出席いただき、医療連携に係る貴重なご意見をいただきました。

## スタッフ紹介

☆よろしくお願いたします

MSW 小貝 磨美

このたび、よろず相談室の医療相談担当の医療ソーシャルワーカーとして採用になりました。

1日も早く中部ろうさい病院の医療ソーシャルワーカーとして、地域の連携医療機関の先生方や、福祉関係機関の皆様と協力し、患者さま・ご家族の療養上の心理・社会的問題の解決や、円滑な退院準備や福祉サービスの利用などのお手伝いができるよう努力していきたく思っております。よろしくお願いたします。

現在、よろず相談室には、3名の医療ソーシャルワーカーが勤務しています。ご要望があれば、開業医の先生方に受診されている患者さま・ご家族からの福祉制度のご利用に関わるご相談等にも可能な限り対応していきたく思っております。まずは、よろず相談室へお電話にてご相談ください。

## 医師交代

☆採用 (平成21年4月1日付)

服部 和良 脳神経外科部長  
渡辺 達人 腎臓内科副部長  
山口 仁 整形外科副部長  
宮崎 晋一 呼吸器内科医師  
山口 真 腎臓内科医師  
下野 哲典 神経内科医師  
原田 憲 循環器科医師  
国村 彩子 循環器科医師  
新保 雄作 循環器科医師  
不破 嘉崇 外科医師  
高間 辰雄 呼吸器外科医師  
石川 浩之 呼吸器外科医師  
神原 俊輔 整形外科医師  
島田 康亮 心臓血管外科医師  
中村 謙一 産婦人科医師  
宮入 彩 耳鼻咽喉科医師  
永坂 由紀子 麻酔科医師  
開田 剛史 麻酔科医師

(平成21年7月1日付)

松尾 正樹 第二呼吸器内科部長  
柳原 一葉 皮膚科医師  
新城 るみ子 眼科医師  
渡会 敦子 職場復帰両立支援センター医師

(平成21年8月1日付)

徳田 順之 心臓血管外科部長代理  
安間 玲緒 眼科医師

☆辞職 (平成21年3月31日付)

坂野 真士 第二整形外科部長  
前田 佳哉輔 腎臓内科医師  
名倉 史子 腎臓内科医師  
重岡 早苗 心療内科医師  
赤羽 和久 外科医師  
中川 誠 呼吸器外科医師  
池田 篤彦 耳鼻咽喉科医師

(平成21年6月1日付)

横井 公宣 循環器科医師  
佐久間 優 皮膚科医師  
川本 英嗣 麻酔科医師

(平成21年7月1日付)

松山 克彦 心臓血管外科部長  
梅村 充史 眼科医師

☎地域医療連携室 (平日8:15~19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室長：小林 建仁 (副院長)

佐野 隆久 (副院長)

事務担当：今関 信夫・金井 久実